

高齢者介護施設勤務を長く経験していた私にとって、牧野華園への異動は不安でした。救護施設とはどのような施設か全く知らなかったからです。

相談員として施設入所に伴うご利用者への対応を初めて担当した際、極度の緊張からガチガチになっていた私は、上司からの何気ない助言で急に気が楽になったことを覚えています。

ご利用者の事情が多様な救護施設では一人ひとりに合わせた個別の対応が求められるので、そのぶん難しいこともあります。理想と現実の狭間で悩む事もありますが、職員同士何でも話し合える雰囲気があるため明るくて風通しの良い職場です。

支援のなかでは、何が正しいやり方なのか正解がわからないこともあります。自分のやり方が正しいか迷うこともありますが、答えは一つだけではないと思います。個々のご利用者はそれぞれの問題を抱えており、解決できる問題と解決出来ない問題があります。解決が出来ないとしても、少しでも良い方向に向かうような援助・支援が出来た時には大きなやりがいを感じることもあります。

ご利用者の生活の質を高めることを念頭に行っている日々の業務の中で、ご利用者の笑顔が増え、前向きな気持ちが感じられた時に嬉しく思います。また経済的な理由や家庭の事情で入所されている方の抱える複雑な問題について、解決に向けて一緒に考えていくことで、ご利用者が少しでも穏やかな気持ちを取り戻すことができたと感じられる時も、支援員として喜びを感じます。

新型コロナウイルスで自粛ムードのなか、職員全員で知恵を絞って工夫を凝らして牧野華園らしい斬新な企画を立て、たくさんの笑顔を引き出せるようにしています。ご利用者、職員ともに良い環境であるように、日々さまざまなことを考え悩みながら仕事に取り組んでいます。

結果が出るまでに時間や工夫を要することも多々ありますが、関わりのある方々の「つながり・感謝」の気持ちを大切に持ちながら、ご利用者の自分らしい生活の実現を目指し「達成感・生きがい」を感じてもらえる様な支援をこれからも続けていきたいと思っています。



救護施設

牧野華園

山田